寺報
善巧（センケウ）

発行
〒938 富山県下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
TEL (0765) 65－0055
FAX (0765) 65－0975

寺（ごよみ）

一月

一日　修正会・年頭参り
三日　お寺の学校かるた会
四日　栗虫助成会
六日
七日　栗虫報恩講
九日　雪ん子劇団初げいこ
一二日　御正忌準備お華束もみ

御正忌報恩講

一三日　昼一時　逮夜
一四日　昼一時　逮夜
一五日　一一時　お講・下村
　　昼一時　逮夜
　　七時半　初夜
一六日　一一時　お講・浦山
　　昼一時　満座
講師　三嵜霊証師

一七日　十七夜勉強会
二四日　花の会新年会

きょうの一日は
永遠の生命につながる一日

今年もよろしく

善巧寺・法輪寺・照行寺

「いのち」の風光

お釈迦さまの弟子のなかでも、とくに多くの人々から尊敬されていたのが十大弟子といわれる方々でした。その人たちはいずれも、智慧第一の舎利弗、神通第一の摩訶目犍連、頭陀第一の摩訶迦葉、多聞第一の阿難というふうに、みな第一という尊称をつけてよばれています。

舎利弗は仏弟子のなかでも、智慧がとくにすぐれていたから智慧第一といい、摩訶目犍連は神通力（超能力）でもっともすぐれていたから神通第一とよばれ、摩訶迦葉は頭陀（厳格な生活態度）にかけてはその右に出るものがいなかったから、頭陀第一というのです。また阿難は、いつもお釈迦さまのおそば近くつかえ、お説きになった教えを細大もらさず記憶していたので多聞第一とたたえられたのです。

このようにお弟子の一人一人が一番であったということは、お釈迦さまの教育方針が、みんなを同じ規格にはめて、劃一的な人間を育てようとされなかった証拠です。粘土細工のように人間を規格どおりに造りかえることなどできませんし、無理にしようとすれば、必ずおさまりのつかない混乱におちいってしまうにちがいありません。

人はみな一人一人ちがった個性をもっており、その人しか生きようのない人生を送り、その人しか死にようのない死を迎えていくのです。その意味で、他人と代わりようのない、文字道理「かけがえのないいのち」なのです。その人しか生きようのない人生を、他の人と比較して、善いとか悪いとか、上とか下とか評価することは許されないはずです。

そうした一人一人の「いのち」のかけがえのなさにめざめ、与えられた「いのち」の火を、自分しか生きられない生き方で燃やしつくしていった人たちだったから、仏弟子たちはみな第一と讃仰されたのです。「青い蓮華は青いままで輝き、白い蓮華は白いままで光る」と説かれた浄土のすがたこそ、まことの「いのち」の風光をあらわしているのです。

浄土真宗教学研究所副所長
梯實圓師

空華忌講話（最終回）

行信教校校長　利井明弘師

僧鎔和上は夢について二つ釈を挙げておられます。一つは大智度論といって、夢のことを書いてある。この大智度論というのは、仏教全体のエンサイクロペディアというか、百科事典みたいなもんです。仏教に関するいろんな言葉の解釈が全部載っている本で百巻あるんです。そこから引いてあるんですが、夢に五つあると書いてある。

これを僧鎔和上が引いておられるんですよ。体が調子悪くて、熱のある時は、燃える火の夢を見たり、昼は黄色、もしくは赤を見る。天然色の夢やね、これ。また、寒くて風邪ひいてガタガタ震えながら寝た時の夢は、水の夢を見る、色は白。風がビュービュー吹いた時に見る夢は、空を飛んでる夢、または黒い色の夢を見る。それから、今まで見たり聞いたりしたことで、ずっとそれが気になって考えてることが夢になることがあると書いてある。それから五つ目がすごい。天人が私たちに未来のことを知らすために夢を見さす、今から起こることを夢に見さす。これが五つです。

ところがもう一つ、これは中国の嘉祥寺吉蔵という有名なお坊さんがいらっしゃるんですけど、嘉祥の安楽経本に、夢に五つあると書いてある。一つには実夢、正夢、二つ目には不実夢、逆夢、三つに不明瞭夢、ぼやっとしてわからんという、夢みたいけどどんな夢だか忘れたというのあるでしょ。四つに夢中夢、夢の中でまた夢を見るという。ついでに言うておくと、罪悪深重の凡夫と自分で知ったら、これは夢中夢ですよ。凡夫が、わしは煩悩具足の凡夫やということは自分で分かるはずがない。聞いたから分かったんや。やっぱり夢からさめた人の言葉を聞かなあきません。お悟りになった方のお言葉を聞かんと。夢の中で、わしは罪悪深重やとか、自分で知ったと思っていたら、夢の中の夢ですよ。これが自力ですよ。ある意味でね。五つ目は前想後夢。これはさっきのとよく似てる。ずっと思っていることが夢になっていく。初めずっと考えてるんです、寝ながら。そしたら、続きを見ていくというのあるでしょ。一つに実夢、二つに不実夢、三つに不明瞭夢、四つに夢中夢、五つに前想後夢。

親鸞聖人が「弥陀の本願信ずべし、本願信ずる人はみな摂取不捨の利益にて無上覚をばさとるなり」と夢を見られたのは、この五つの中の実夢である、正夢であると、僧鎔和上は書いておられるわけですよ。

僧鎔和上というのはありがたい人だったんですね。なぜかって言いますと、現代ではいろんな和讃の注釈書が出ていますが一つ問題になっていることがある。親鸞聖人の夢の中に出てこられたのは誰かということです。誰がこの弥陀の本願信ずべしというのを言われたのか。ぼくは僧鎔和上のこれを読むまでは、一人には決められんけども、必ず二人のどっちかだと思っている方があるんです。それは一人は聖徳太子、もう一人は法然上人です。どっちかしかないと思っていた。ところが、僧鎔和上はきついね。ありがたい。そんなことが書いてないのに浅はかな心で計るな。ひそかにお告げになった深遠なるお心をいただけと。誰でもいいやないか。書いておられないのやから。それを決めんでもいいやないかとこうおっしゃっている。私たちは誰やと決めたくなるんですね。

そこに題が書いてあるでしょ。正像末浄土和讃、愚禿善信集、とあるでしょ。これはほんとはおかしい。高僧和讃も浄土和讃も全部愚禿親鸞作。正像末和讃だけ愚禿善信集。今後愚禿親鸞と名のるとおっしゃったのは、北陸へお流されになって以後です。以後全部愚禿親鸞作でしょ。それに愚禿善信集とある。最晩年だから愚禿親鸞と書いてもいいわけでしょ。なぜ善信と書かれたか。実は教行信証の最後に、親鸞聖人がものすごく感激して法然上人の『選択本願念仏集』を写させてもらわれた、と同時に、法然上人のお姿を絵にしてそれを授けてもらった時に、夢のお告げで聖徳太子に頂いた善信という名前をご真筆で書いていただいた。その時の喜びを思い出して、善信と書かれたかどちらかです。

また、この正像末和讃の最後に聖徳太子のご和讃があって、それにこううたってあるんですよ。「救世観音大菩薩　聖徳王と示現して　多々のごとくすてずして　阿摩のごとくそひたまふ」多々というのはお父さん、阿摩というのはお母さん、聖徳太子は観音菩薩の生まれ変わりで、私の父とも母ともなってくださったお方だという風に味わっておられる。

僧鎔和上は、書いてないのになんでそんなこと詮索せんならんのやと、それより、このご和讃を夢に見られてうれしさのあまり書き付けて、そして後に正像末和讃の一番最初にもってこられる。このご和讃のこの深い深い意味を味わうべきだと、こうおっしゃるんですな。これが実夢なんですよ。

実夢というのは、親鸞聖人もおっしゃっていることがあります。恵信尼公のお手紙にでてくるんですよ。恵信尼公がある夜、夢を見られた。鳥居みたいのが出てきて、その両脇に神々しい光輝く仏さまが二体あった。どういう仏さまかと思って拝みつつ、あれはどなたですかと聞い

たら、誰かが、こっち側の仏さまは勢至菩薩で法然上人の生まれ変わりだと。もう一方は観世音菩薩で親鸞聖人のお姿だというところで目が覚めた。だけれど自分のご主人にあたる親鸞聖人に、あなたが観音さんに見えましたというのを、ちょっと言いそびれて、法然上人が勢至菩薩のお姿で夢の中におでましになったという話だけを親鸞聖人にしたら、それは実夢ですとおっしゃった。ちゃんと実夢と書いてある。今、僧鎔和上も「弥陀の本願信ずべし、本願信ずる人はみな摂取不捨の利益にて無上覚をばさとるなり」というのは、実夢だとこうおっしゃった。

一番大切なのは、その罪悪深重の凡夫に夢の中から聞こえてきたんです、弥陀の本願信ずべしと。弥陀の本願というのは、命終わったら必ず仏にするということ、命終わったら必ず浄土に生まれさすということ。これは間違いない、阿弥陀さんやから間違われん。そうでしょ。向こうが救うと言っておられる。それでまた僧鎔和上がすごいこと言うとられる。学者は弥陀の本願信ずべしというのは信じてない人に言った言葉ではないかと言った。わかる?まだ信じてない人にご本願を信じなさいよ、という言葉じゃないかといった。しかし僧鎔和上は、これは信じてる人に聞こえてきた、信じてる人が信じた上にもなおなお聴聞を重ねて、そうだったそうだったと味わえよという、そういう意味にとっておられるんです。

だから弥陀の本願信ずべしというのは信じてない者に信じなさいと言ったのと違って、ご本願をいただいてる者にちゃんと味わいなさいよとこう言っておられるんです。

皆さんね、ここへ座っているということはね、もうすでにご本願のうちにあるのよ。僧鎔和上ってえらい人やね。二百十一年経った今でもこうしてご命日つとめてる人って少ないよ。その前にこうして座らせていただく身となってるということは、いつの間にやら南無阿弥陀仏聞違いないと聞かせていただき、阿弥陀さまのおっしゃることを疑わないということです。疑っていては救われない。座れない。しゃばの煩悩が喜ぶことやったらいくらでもある。一杯飲んで、テレビ見て、暖かいところで座っていたらいいのに。寒い所に座って、それが大きな大きな幸運を得ているということですね。二百十一年も経ってるのに、僧鎔和上のことを思い出し、こうおっしゃってるなあと、私はどうかなあと味わわせてもらいましょうよ。これは信ずる人におっしゃった言葉、間違いなく罪悪深重の凡夫をお浄土の阿弥陀さまにしあげるとこうおっしゃったというのは本願ですよ。第十八願。この本願信ずべしはね、第十七願、第十八願そして正定聚、そして悟り、涅槃に入るという、浄土真宗の全体がうたわれてある。それを夢でパッと聞かれたんだ。で、親鸞聖人はこの孤独の真っ只中にあって、そうやったそうやったとこう胸をたたみこむようにもう一度お念仏を味わい直された。さっき言いましたが、鮮明は正像末和讃は病人の姿だと言うたけれども、病人が薬飲んでもう間違いなく救われる姿をうたってあるのや言うたのはそこなんです。これは僧鎔和上やわな。

信心いただいたらもう聞かんでもいいんだな、というこんな横着な話はない。重ねて重ねて念仏聞きなさいよということになるのが、この夢のお告げのご和讃です。明日もずっとお話しますから、どうか続けて聴聞してください。今日はこれくらいにしておきましょう。

完

（平成五年空華忌　十一月四日の講話より）

本願寺出版社製作 アニメビデオ 『蓮如さま』 完成

上人の姿と教えを

乱世にあって御同朋・御同行の精神で浄土真宗を再興した蓮如上人の生涯を広く知ってもらおうと、本願寺出版社ではアニメビデオ「蓮如さま」（上巻・下巻）の制作を進めてきたが、このほど両巻とも完成し、内外から質の高い作品と注目を浴びている。

これは、厳しくも温かな上人の姿と教えを、身近にいるお弟子の目を通してドラマチックに描いた作品で、数かずのエピソードを盛り込んで、わかりやすく親しみのもてるものに仕上げている。

上巻は「燃える日日」と題して、上人の誕生から吉崎御坊での教化までの前半生を描き、「鹿子の御影」や「寛正の法難」、「嫁おどし肉付きの面」などが描かれている。

下巻は「栄える日日」として、吉崎坊舎の火災にまつわる「腹籠もりの聖教」のエピソードから上人の往生まで。上人の教えを中心に描き、上人とともに念仏に生きた赤尾の道宗などの弟子たちの生きざまも紹介している。

アニメビデオ「念仏物語」シリーズの四作目（第六巻、七巻）で、今回は童話作家の中川晟氏が原案を、丹波元氏が脚本を担当し、千葉乗隆浄土真宗教学研究所所長が監修した。

上・下巻各二十五分で、上・下巻のセットのみの販売、定価九千八百円。送料は実費。申し込みは、〒600　京都市下京区堀川通花屋町下ル・本願寺出版社（TEL075－371－4171、FAX075－341－7753）。

雪ん子シニア 感動の旗揚げ

今回の舞台が大成功で幕を閉じて、とてもよかったと思っている。また、観る人が、この劇で伝えたかった全てを分かって下さったことも、すごく嬉しかった。私は、他の人が味わえない感動や時間、経験ができたと思っている。

今回役をもらった時は、楽しみな反面、不安もあった。でも、練習を重ねる毎に、その不安はなくなっていった。毎回練習日が楽しみだった。自分が、こんなに打ち込んでいるということに、私自身が一番驚いた。公演が間近になってくると、忙しくて、慌ただしい毎日だったけど、そんな生活も、なんだか私にとっては、充実した日々だった。公演が終ってからの一週間が、物足りなくて、どうしようもなかった程だ。シニアには、他の劇団にはない、居心地のよい雰囲気があると思う。だから私にもやっていけたのだと思う。話が前後するが、公演当日は、本当に緊張した。シニアの初舞台ということもあったし、半端な演技では認めてもらえないという思いがあった。でも終わった時は、感動でいっぱいだった。やっていてよかったと心から思った。

十二期生　倉井裕美子

十一月二日・三日に、雪ん子シニア旗揚げ公演をしました。

初日は、大成功でした。カーテンコールでは涙が止まりませんでした。初めての公演が終っての、安心感と、やりとげたという満足感で心がいっぱいで、「視界がぼやけた」と思った瞬間から涙がながれていました。

控え室で、かんぱいをする前に、女先生に「今日は、女先生と、男先生の結婚記念日です。」って聞いて、また涙が…、男先生が亡くなられてからもう何年もたつのに、まだ、生きていて、ほめてくれた気がしました。

これからも一生懸命練習して、沢山の人に感動をあたえられたらいいなと思い、それと同じ様に自分でもいろんな感動をおぼえていきたいです。

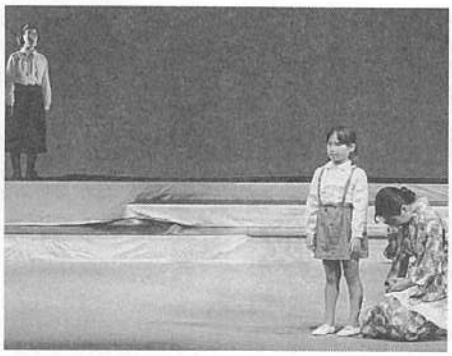
十四期生　太川　理奈

◇　◇　◇

今回の劇は、もっとたくさんの高校生に見てほしかった。きっと今、悩んでいる人たくさんいると思う。ただ、何となく生きている人たくさんいると思う。そういう人たちにこの劇を見てほしかった。夢と勇気を与えることができる作品だと思うから。私だって、演じながら、いろんなこと与えられたもん。自分の生き方、考えさせられたもん。

二日間の公演。大成功だった。満足感でいっぱいだった。これからも、みんなの輝きがずっと続くように、一生懸命練習して、感動して、がんばっていきたい。

十二期生　高田　優子



◇　◇　◇

卒業公演のとき私は、「中学生になっても続けたい」と思い、シニアができることを願っていました。

「冒険者たち」の本読みのときは、とても苦労しました。女先生は、雪ん子のころより厳しくて、雪ん子のままではダメなんだということを痛感しました。はじめのうちは、女先生に注意されたところを直していくのに精一杯でした。そのうち、注意されたところが直せなかったり、思うようにせりふが言えなかったりして、自分に劇は向かないのではないかと思うようになりました。そして、舞台に立たないまま辞めてしまおうかと思いました。そんな時、公演の誘いがあって、私はスタッフとして参加するつもりでした。行ってすぐ本読みをしてみて、「この劇に出たい」と思いました。

私は、妖精として練習していたけど、なかなかなじめず、いつもみんなの足をひっぱっていました。一人だけとりのこされないように必死で頑張りました。舞台に立ったときは、雪ん子のころとは違う緊張感があって、思いどおりに体が動きませんでした。でも、そのうち劇の中にとけこんでいって、自分の体が妖精のように浮いているような感じがしました。シニアとしての初舞台が大成功だったので本当にうれしかったです。この感動を与えてくれた女先生やみんなにとても感謝しています。

十四期生　田中　真希

若者の生き生きとした表情はきっと多くの人々にまっすぐに生きる勇気を与えていると思います。ガンバレ!!

戦争のせの字も知らない子供たちが、悲惨な戦争を通して、生きること、夢を捨てないことの大切さを一生けん命演じている姿に感動しました。何よりもこの子供たちが、私たちが毎日なにげなくすれちがっている、どこにでもいる子供たちなんだということに驚きました。この子たちはきっといい人生を歩んでいくだろうなと思います。

是非、私たちの回りにたくさんいる、夢を見つけられずにいる若者たちをとりこんで、素晴しい雪ん子シニアに成長していって下さい。

魚津市　村上俊樹さん41才

◇　◇　◇

すばらしい劇を本当にありがとう。生きるということの大切さを再び思い知らされました。本当に本当にありがとう。これからもがんばってください。言葉にならない感動が劇が終ってもまだ心に残っています。自分に言われているような言葉がたくさんありました。本当にありがとう。心にしみこんでいく感じです。くどいようですが本当にありがとう。

婦中町　稲垣貴美子さん21才

◇　◇　◇

すばらしく感動し、又、魂に訴えるようなすばらしいミュージカルでした。児童劇団としてはプロなみ、照明もプロ級。よくがんばり、よく練習しました。感激して涙がでました。これからも感動を、それ以上に魂にうったえる、今回の芝居のような公演を切に望みます。

黒部市　尾山子四夫さん

いじめ、戦争、親子関係、重いテーマをとり上げながらも、テンポよく構成し、生きることをじっくり考えさせてくれました。どの人も生き生きと輝いていました。とてもすばらしい劇でした。それぞれの個性が歌、キャスティングにも生かされていました。よい劇を、感動をありがとう。もう一度といわず、二度も三度も見たいです。

とてもよかった。感動した。この感動をもっと多くの人に知ってもらいたいと思った。

これからも、今日のような、人々の感動をよぶ芝居、がんばってください。

入善町八幡

杉本早耶佳さん13才

私はこのミラージュホールでの公演をとても楽しみにしていました。そして私はこの公演を見て、ある意味でショックをうけました。演じている人、一人一人の目が輝いて全員が演じることを心から楽しんでいるような感じがしました。とてもうらやましく思いましたが、同時にもし自分がシニアのメンバーの中に入ったらこれほどの演技ができるのだろうかと思いました。しかし、それ以上に私ももう一度舞台に立ちたいという思いが強くなりました。

受験の年だったので、私は、今回はシニアに参加できなかったのですが、その入試でこんなことがありました。

大学入試の面接は一人約二十分で、試験官は厳しい顔をした人と穏やかな顔をした人がいました。その面接ではいろいろなことを聞かれましたが、終わり頃に私はやさしい顔をした方の試験官に

「劇団について説明して下さい」

と言われ、雪ん子劇団で六年間行ってきた活動内容と今年雪ん子シニアが結成されたことを話しました。すると試験官は、

「ほぉそうですか。あなたはとてもよく通るいい声をしていらっしゃいますよね。あなたが劇団で得たその声はあなたのすばらしい宝物ですね。」

と言われました。確かに周りが静かだったので私の声も通ったのだろうけれど、やはりこれは雪ん子で六年間鍛えてくださった男先生と女先生のおかげだと思いました。また、私が入試の面接で全く緊張せず、運よく雪ん子のことを質問してもらえたのもきっと男先生が見守っていてくださったおかげだと思います。

この時ほど雪ん子に入っていてよかったと思ったことはありませんでした。これからは雪ん子シニアでこの宝物を大切にして頑張っていきたいと思います。

十期生　新保博子

ごえはん近況

食欲あり―うちのごはんはおいしいおいしいと。

お喋り好き―ラジオを聞くことが多いので、社会時評もけっこうやってますが、目下の関心は食品の栄養価について。

おらはうす―運動会、散策、民謡大会など本当によくしてくださいます。

大銀杏　散りつくしたり
　　児等遊ぶ
喚鐘のひゞく間に散り急ぐ

ご奉仕ありがとうございました

昨年も沢山の方々が清掃奉仕を行って下さいました。こうした皆さんの熱い心がお寺を守り続けていくことを思うと胸あつくなる思いです。お名前を挙げて御礼を申し上げます。本当にいつもながらありがとうございます。

（敬称略）

中山慶太郎、二口実、西中正毅、橋本庄吉、山内健二・すい子、河村としい、田中まつゑ子、本波秀夫・みき子、本波光雄・ときゑ、本波ヒサ、菊地二美子、菊地れい、本波すみ子、樫初枝、大藪富美子、橘てる子、野島重一・はつ枝、栃沢みつゑ、野島義春・よしえ、沢田最一、高島彦久、佐々木勝武、中村忠夫、野崎夏枝、中林清市、清水はな、中林昌子、中林絹子、野畑一雄、大藪良造、岩上已之助、大藪守、川瀬久義、嶋田久之、藤沢潔、開沢宏之、浦滝甚一、鬼原勝次、鬼原みつ、大島清一、森岡昭二

若院雑感

最近学校で、授業とは別に週一回「勉強会」が開かれるようになった。毎週水曜日の夜七時半からで、学生十余名が集まり、今日はその二回目だった。この頃だらけがちの私にとっては、とてもうれしい会で、誘ってもらってよかったと思う。

勉強会の内容は、宗祖親鸞聖人がお書きになった「教行信証」をとりあえず最初から読んでみようぜ、ということで、桐渓先生の「教行信証に聞く」という本を読みながら皆で疑問を出し合い、話し合ってゆく。まあ、とりあえず、あんまりりきまずに、この会が長くつづけばいいなあ、ということでやっている。なかなか、いい感じだ。

この会には一つ長所とも短所ともいえる特長があって、学生が集まって始めたので、先生がいないということ。つまり、皆で疑問を出し合うのはいいが、その場で解決することはほぼない。ちゃんと答えをまとめてくれる人がいないのだ。そこで、今のところは後日誰かが、先生にお聞きして、次回に発表するという形をとっている。でもこのやり方を私はなかなかいいと思っている。普段の授業では、どんなに先生が、「私も皆と一緒に勉強している」と言っても、やはりそこには、先生と生徒の関係で、教える立場教えていただく立場という風になる。もっとも、この学校の先生方は本当に、「私も共に勉強している」という感じを受ける。なぜなら…、まあそれはいい。これも仏力なのだろうか。とりあえず、何がいいたいかと言えば、先生と生徒の立場がよくないとか、そんなことを言ってるのではなく、この会のように、学生同士が話し合って、答えは出なくとも、仏法について疑問を出し合うのも、なかなかいいよなあ、と言っているのだ。それに先生に聞きにいくまでに、自分でいろいろと考えたり、調べたりするのも非常に勉強になる。

日頃、勉強しているかいないかがあまりにもはっきりわかるし、皆においていかれないように、つづけていけたらなあ、と今、感じている。

寺ごよみ　二月

一日　お講・浦山
二日～四日　三日市報恩講
七日～八日　生地・荻生報恩講
九日　舟見報恩講
一六日　お講・下立
　音沢助成会
一七日～一八日　十七夜勉強会
　下立報恩講
二〇日　入善・泊報恩講
二一日　栃屋・熊野報恩講
二六日　雪ん子舟橋村公演

寺ごよみ　三月

一日　お講・浦山
二日～九日　浦山報恩講
一〇日　白鵠会総会
一二日　仏婦連盟黒西組総会
一六日　お講・栃沢
一七日　十七夜勉強会
一九日　総代会教化推進協議会
二六日　雪ん子劇団十五周年記念公演

御正忌報恩講

御正忌報恩講は、宗祖親鸞聖人の祥月法要で、聖人の遺徳を偲びつつご恩徳に報謝するもので、真宗門徒にとって一番大切な行事です。必ずおまいりください。

十五・十六日のご講師はおなじみの福井勝山西宗寺住職、三嵜霊証先生、十三、十四日は若院の法話と、ビデオアニメ最新作『蓮如上人』上映です。

尚十五・十六日はお講のお斎があります。

一三日　昼一時　逮夜
一四日　昼一時　逮夜
一五日　一一時　お講・下村
　　昼一時　逮夜
　　七時半　初夜
一六日　一一時　お講・浦山
　　昼一時　満座

本願寺布教使　三嵜霊証師

善巧寺年中行事

どうぞおまいりください

修正会　一月一日
御正忌　一月一三～一六日
太子会　四月一一日
花の誕生会　四月第四日曜
落語会　六月一三日
祠堂会　七月一六～一九日
盆踊り　八月一五日
盆　会　八月一六日
報恩講　一〇月一九～二〇日
空華忌　一一月四～五日
除夜会　一二月三一日

ご寄進

門徒法事用打敷　板屋　島田竹次さん

門徒法事用盤　中新　尾村幸枝さん

装束カバン　明日　山本　勇さん

本堂下陣たたみ　音沢　朝倉隆俊さん

雪ん子劇団 十五周年記念公演

三月二十六日午後

雪ん子劇団は昨年十一月、十五周年を迎えました。新川文化ホールのこけらおとしや滋賀県仏教壮年二十周年記念大会などに招かれてはつらつとした舞台をお見せしています。子供たちの体当りの懸命な演技に、感動の言葉が贈られています。先輩たちの『雪ん子シニア』の発足も相まって、更なる飛躍の年になることでしょう。

今年は男三、女八人、計十一人の卒業生を送り出します。

総代会からのお知らせ

黒部市栃沢地区の総代が、藤沢潔さんから開沢利雄さんにかわりました。藤沢さんは平成四年から三年間総代をつとめられ、よくお寺に足を運んで下さいました。ありがとうございました。

長年総代として寺の護持発展に貢献された音沢の佐々木助一さん（五月四日）と入膳の板川繁次郎さん（十二月十日）がお浄土へ還られました。ありし日のお姿を偲びつつ合掌。

合掌

新年おめでとうございます。昨年はいろいろお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

善巧寺もなんとか無事に新しい年を迎えることができました。

さて、昨年の善巧寺重大ニュースをひろい上げてみましょう。

1　俊隆成人式
2　ごえはん退院
3　俊隆、住職の資格取得
4　講師部屋改築
5　雪ん子劇団十五周年
6　雪ん子シニア発足

ごえはんもベッドの上の生活とはいうものの、比較的元気な現状を維持しているのはありがたいことです。

住職不在とはいえ、俊隆が資格を取得し、寺内外ともに住職代務をしっかりつとめられるのは心強いことです。

二十二世住職隆弘が十年間育てた「雪ん子劇団」が十五周年を迎え、そこから「雪ん子シニア」の発足へと大きな広がりをみせてくれました。

善巧寺で「かけがえのないいのち」との出会いを。

よろこびにつけ悲しみにつけ、お寺へ足を運んでください。